

《第112回》吉松校区 亀中子ども会「もぐら打ち」

育成会会長 芹川 桐子

令和7年1月12日（日）亀中公民館、亀中地区で「もぐら打ち」を行いました。小学生12名と親が参加しました。亀中地区だった中学1年生には、お手伝いに毎年誘っています。今年は、用事等で参加していません。来年度、新一年になる子どもと親も誘って、親睦を深める場になっています。今年は、来年度入学予定の2名が参加しています。竹や藁は、地区の方に、お願いをして切らせていただいたり、準備をしていただいています。

〈もぐら打ち用の竹切り〉14時～

- お父さん方が中心となってもぐら打ち用の竹を切り出します。



〈親子集合〉14時30分～

- 子どもとお母さん方も亀中公民館に集まります。お父さんと子どもたちは、竹に藁を紐でくくりつけ、棒作り。お母さん方は、もぐら打ち後のご飯(カレーライス)を作りました。

〈もぐら打ち〉15時～17時頃

- 3グループに分かれて地区を回りました。地区の放送でもぐら打ちを始めることを伝えます。
- 各家庭の玄関や庭先で、「13日のもぐら打ち」を繰り返して、最後に「もうひとつおまけのもぐら打ち」(何日にしても13日と言っています)と掛け声をかけながら、棒を数回、地面に叩きつけます。
- 甲高い音がパンと出るように思いっきり叩きます。地区の方からは、お礼にお菓子などをいただいています。
- もぐら打ちの後、今年度は、久しぶり、コロナ禍から中止していた食事会を再会しました。

〈子どもの感想〉

- 竹の棒が、壊れてしまうほど、頑張って叩きました。みんなともぐら打ちができて楽しかったです。



〈大人の感想〉

- 私が子どもの時は、もぐら打ちをしていなかったのですが、この地区に住んで初めてもぐら打ちをしました。寒い中ですが、子どもたち同士が、和気あいあいと楽しんでいる姿が微笑ましく、地域の方とも触れ合うことができ、素敵な伝統だと思いました。
- 他の子ども会の行事は、お母さん方の参加が多いですが、もぐら打ちは、お父さん方も多く参加するので、保護者同士の親睦を深める場にもなっています。

準備等大変ですが、これからもこの伝統を続けていければと思います。





《事務局から》

事務局長 白石 和典

- ① 貴重な活動報告有り難うございました。詳しく書いてあり様子がよく分かりました。また、写真もよく撮れていてこの行事の内容が凝縮されているようです。
- ② この報告を見て、改めて素晴らしい伝統の行事だと思いました。私も小学生の頃、正にこのようにもぐら打ちをして各家庭からお菓子などをもらった記憶がかすかにあります。現在はいろんな環境が変化して大切な伝統が途絶えてしまっているところも多いようです。
- ③ この行事に、卒業した中学生を誘ったり、今度小学生になる子どもを誘ったり、お父さんの出番があったり、地区の放送でもぐら打ちのお知らせがあったりと、地区の皆さん全体が協力してこの行事を盛り上げていることが大変素晴らしいです。
令和4年度・5年度、市子協総会時の講演で、関西大学次世代博士研究員・東海大学非常勤講師（現在は熊本学園大学助教）の田中晶子先生が「子どものやる気を引き出すために大人ができること」（4年度）、「子どもの『やってみたい!』をサポートする大人の役割」（5年度）で、そのために3つの欲求を満たしてあげてください。と。その一つが「関係性の欲求」〈安心できる人と一緒にやったという感覚〉と話されました。正に今回のもぐら打ちは皆が関わっていて子どもたちのやる気に繋がっていると思います。大変でしょうが、この雰囲気大切に、貴重な伝統行事を守ってください。
- ④ 亀中子ども会の益々のご活躍と、子ども達の健やかな成長をお祈り致します。